

**令和7年度第2・3回海外経済セミナー**  
**「地方自治体における高付加価値旅行」**  
**～地元への還元を含めた高付加価値旅行～を**  
**開催しました！**

**【概要】**

令和7年度第2・3回海外経済セミナーを開催しました。

現在、日本への外国人旅行客が増加しており、一部地域ではオーバーツーリズムが問題となっておりますが、依然として多くの自治体は訪日客誘致に取り組んでおります。

訪日客誘致をこれから始める、もしくは始めたばかりの自治体がある一方で、訪れる外国人旅行客が増加はしているものの、地元への還元が低い、もしくは単価が低位にとどまっている自治体もあります。

今回のセミナーでは、「地方自治体における高付加価値旅行」～地元への還元を含めた高付加価値旅行～をテーマに、第2回で「なぜ地方自治体で高付加価値旅行に取り組むべきなのか」「地方の魅力とは」に自治体に気付いてもらうきっかけづくりをおこない、第3回で「地方の魅力をより昇華させる」「事例を交えて高付加価値のコンテンツの提供につなげる」ことを目的に、第一線で活躍されている方々を講師としてお迎えし、具体事例も交えながらご講演いただきました。

**セミナープログラム（令和8年1月14日（水）開催）**

講演1 「地域の観光の質を高める一歩」～高付加価値旅行を戦略として考える～

株式会社 やまところ  
代表取締役 村山 慶輔 氏

講演2 「リジェネラティブ（再生）ツーリズム」

～地域資源継承のための高付加価値コンテンツ造成～  
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠  
プロデューサー 林口 砂里 氏

**【講演1】「地域の観光の質を高める一歩」～高付加価値旅行を戦略として考える～**

株式会社やまところ代表取締役を務める村山慶輔様から、自治体における高付加価値旅行を目指すにあたっての基礎情報や課題等についてご講演いただきました。

まず高付加価値の本質についてご説明いただきました。価格と価値の関係について相対評価で決まる。重要なのは、価格に見合った、あるいはそれ以上の「納得感」があるかどうか。高付加価値＝高価格ではないということです。

高付加価値には、消費額（単価・滞在・体験の厚み）、満足度（再訪・推奨・レビュー）、

地域還元（域内調達・雇用・税収）が必要であり、お金が落ちても、地域外に流出するなら意味がなく、満足度が高くても、稼げなければインフラは維持できません。

観光客数を増やす観光が意味を持たなくなっており、従来の考えからの変化が必要です。高付加価値化することで人材不足解消や地域社会の問題解決にもつながります。

高付加価値の源泉として、コアバリューをあげておられましたが、コアバリューとは、この地域でなければ成立しない体験や価値を、誰に、どう届けたいのかを言語化したものです。「何があるか」ではなく「どう記憶されたいか」について考えて、目に見える観光資源を羅列するだけでなく、その地域にしか語れない価値（コアバリュー）を落とし込む必要があります。

#### ・コアバリューの3要素

- ① その地域でなければ成立しない（固有性）
- ② 誰に向けた価値かが明確（ターゲット）
- ③ 体験・文脈・意味まで含んでいる（意味性）

自治体の役割とマスタープランについて、「何をやるか」だけでなく、何をやらないか、誰がやるかを言葉として残すことが重要です。また、マスタープランの要素として、目標（定量・定性）、役割分担（行政、DMO、民間）、見直し（3～5年＋毎年レビュー）が大切です。高付加価値化とは「全部はやらない」と決めることであり、中長期でしか成立しません。



#### 【講演2】「リジェネラティブ（再生）ツーリズム」

～地域資源継承のための高付加価値コンテンツ造成～

一般社団法人富山県西部観光社 水と匠にてプロデューサーを務める林口砂里様から地域資源継承のための高付加価値コンテンツ造成についてご講演いただきました。

観光を通じた地域づくりに取り組んでいます。立ち上げた当初は、富山県西部は観光地としての認知は非常に弱い状況でした。

富山県の西部には、豊かな自然とその中で育まれた精神風土、伝統的なものづくりという

資源があるので、それらに興味がある方をターゲットに決め情報発信を進めていきました。

ターゲットの一つである新しい富裕層（モダンラグジュアリー層）は、深い本物の体験に興味があり、積極的に挑戦する傾向があります。また旅行に求めるものとして、サステナビリティや地域ならではの食などがあります。

そのような方たちに届けるため、日本、中国、欧州のPRエージェントと契約し、メディアや旅行代理店にプレスリリースを配信しており、2024年は、国内53媒体、海外117媒体にて紹介いただきました。

また、伝統のものづくり、食（日本酒・ウイスキー、海の幸）、自然、精神風土、民藝など、富山県ならではの観光資源を体験できるオリジナルコンテンツを開発しています。

富山でも人口減少に伴う空き家が増えている中で、文化的にも価値が高い空き家を改修し、宿泊施設として現在2軒運営しています。1軒目の「楽土庵」は、砺波平野・散居村の象徴である、築200年のアズマダチを再生し、宿泊+レストランとして活用しています。3室のみで、1泊1室10万円程度のブティックホテルとなっています。宿泊費の2%を寄付金としてお預かりし、散居村保全活動団体などに寄付しています。2軒目の「杜人舎」は、550年の歴史ある善徳寺内の建物を改修した宿泊・カフェ・ショップ・テレワークスペースの多機能を持つ施設です。1泊お一人1万5千円程度でユニークな滞在ができる場所になっています。どちらの宿も、富山の人と自然がともにつくり合った「富山の土徳」を体感いただくことを目指しています。

#### ○プログラム紹介

- ・手打ちおりんの製造工程の実演と技術体験
- ・おりんを活用したホテルでのサウンドヒーリングセッション
- ・井波瑞泉寺と木彫工房の彫刻師による案内と木彫体験
- ・国宝・瑞龍寺にて、住職による特別ガイドおよび非公開茶室でのプライベート茶会
- ・日本で3番目に古いウイスキー蒸留所にてオリジナルブレンドウイスキーを作る体験
- ・日本最大の散居村（砺波平野）における屋敷林手入れ作業体験（本プログラムは「サステナブルな旅アワード」大賞を受賞）
- ・地域づくり・地域資源保全活動全般

高付加価値とは、単に価格の高さではなく、参加者の価値観が変わるようなユニークな体験を提供することです。そのためには、この地域が持つコアバリューを言語やビジュアルで適切にターゲットへ伝えることが重要だと考えています。また、外部の方に価値を認められることで、地域の方たちにとってはあたり前となっていることが再認識され、主体的に地域資源を守っていこうという意識の変化にもつながります。

また、持続可能な体制の構築も重視しています。地域ならではの体験を提供するためには、地域の方々との信頼関係が不可欠です。地域の暮らしや日常こそが外部の旅行者にとって価値となるため、地域住民との交流を伴う体験づくりを進めています。



セミナープログラム (令和8年1月22日(木)開催)

講演1 地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業について  
観光庁 観光資源課 専門官 竹内 潤一郎 氏

講演2 「食」の力を最大活用したガストロノミーツーリズム推進事業について  
観光庁 観光資源課 専門官 川平 昌彦 氏

講演3 世界遺産「佐渡島の金山」を活用した夜のプレミアム体験の創出  
新潟県佐渡市 観光振興課 番場 柁哉 氏

講演4 星空 × 薪火料理を軸とした高付加価値体験の創出  
岡山県井原市 観光交流課 藤岡 健二 氏  
株式会社ビザビ 地方創生局 局長 佐藤 勢一郎 氏

【講演1】「地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業について  
観光庁 観光資源課 専門官 竹内 潤一郎様から、現在の観光業界の概況や地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業の概要と事例についてご講演いただきました。

まず、現在の観光業界の概況についてデータを交えてご説明いただきました。訪日外国人旅行者数は増加傾向にあり、それに伴う観光消費額も増加しており、観光がもたらす経済効果について解説されました。さらに観光庁での取り組みについてご説明いただき、地方創生プレミアムインバウンドツアー集中展開事業の概要と事例についてご紹介いただきました。地域の観光資源を生かした高価格帯商品の造成を集中的に実施しており、地域への経済波及効果の最大化を促進するため、地域調達率の高いコンテンツ造成を支援している内容でした。



【講演2】「食」の力を最大活用したガストロノミーツーリズム推進事業について

観光庁 観光資源課 専門官 川平 昌彦様から、観光施策の方向性やガストロノミーツーリズムの事例、観光需要分散・地域の観光資源充実に関わる事業についてご講演いただきました。

観光立国推進基本計画では「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つの戦略を総合的かつ強力に推進しています。インバウンド消費の関心は、「モノ消費」から体験に価値を見出す「コト消費」へ変化しており、他者が体験していない特別な体験を求める傾向があります。JNTOの調査では、国外旅行の主な目的として「ガストロノミー・美食」が最も多く挙げられており、食への強い関心があることなどデータを交えてご説明いただきました。観光庁で取り組まれているガストロノミーツーリズム事業について事例を交えてご紹介いただきました。それぞれの地域の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ食文化に触れる取り組みを紹介いただきました。地域の特色を生かした食コンテンツの造成を支援している内容でした。

観光庁 竹内 佐渡市（バネリス... 井原市（バネリス...  
 CLAIR（佐渡市） 観光庁 川平 CLAIR（佐渡市） 観光庁 竹内 佐渡市（バネリス... 井原市（バネリス...  
 観光立国推進基本計画（2023.3.31閣議決定）の基本的な方向性 観光庁  
 計画期間：令和5～7年度（2023～2025年度）

「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つのキーワードに3つの戦略を総合的かつ強力に推進。

**持続可能な観光地域づくり戦略**

- 観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- 観光DX、観光人材の育成・確保
- 自然、文化の保全と観光の両立等、持続可能な観光地域づくり

**インバウンド回復戦略**

- コンテンツ整備、受入環境整備
- 高付加価値なインバウンドの誘致
- アウトバウンド・国際相互交流の促進

**国内交流拡大戦略**

- 国内需要喚起
- ワークーション、第2のふるさとづくり
- 国内旅行需要の平準化

【講演3】世界遺産「佐渡島の金山」を活用した夜のプレミアム体験の創出  
 新潟県佐渡市 観光振興課 番場 柁哉 氏から、世界遺産「佐渡島の金山」を活用した夜のプレミアム体験の創出についてご講演いただきました。

佐渡市ではユネスコ世界文化遺産に登録された佐渡島の金山を活用した取り組み等のコンテンツ造成について経緯から課題までご説明いただきました。世界遺産登録を契機としたインバウンド誘客に取り組んでいたが、伸び悩んでいました。そこで「佐渡島の金山」の魅力を伝えることのできる文化的コンテンツの造成に取り組み、「佐渡島の金山」ナイトツアーを造成しました。世界でも活躍するアーティストとの連携や通常開放していない時間帯での史跡の活用等、前例がない取り組みを実施されています。まだまだ地域としての認知不足という課題を抱えられていますが、継続的なプロモーションに努めている内容でした。

観光庁 川平 観光庁 竹内 井原市（バネリス...  
 CLAIR（佐渡市） 佐渡市（バネリス... CLAIR（佐渡市） 観光庁 川平 観光庁 竹内 井原市（バネリス...  
 1. 造成したコンテンツの内容

「佐渡島の金山」ナイトツアー 無名異焼制作体験 プライベート能鑑賞・能仕舞体験  
 プライベート鬼太鼓鑑賞・体験 鼓置のプライベート公演・メンバーによる太鼓指導

#### 【講演4】 星空×薪火料理を軸とした高付加価値体験の創出

岡山県井原市 観光交流課 藤岡 健二 氏と株式会社ビザビ 地方創生局 局長 佐藤 勢一郎 氏から星空×薪火料理を軸とした高付加価値体験の創出についてご講演いただきました。

井原市シティプロモーション事業としてのイベントとして「星降るレストラン」についてご説明いただきました。井原市美星町は令和3年に「星空保護区（コミュニティ部門）」に認定されています。「星」という観光資源と「食」を掛け合わせたコンテンツを造成されました。有名シェフからのコーチングを経て、地域食材を使った新メニューを創発されました。

「地域資源」「地産食材」「星空×おもてなし」「料理人」の4つの要素を掛け合わせ、統合・融合させることで、訪れる人の記憶に深く残る時間を提供しました。

井原市のガストロミーツーリズムの取り組みは、星空という世界的価値を核に、食・文化・自然を融合させた持続可能な地域モデルであることが明確となりました。特に地域シェフ育成や事業者の横断連携、独自性の高い高付加価値体験の創出は、他自治体への横展開可能性を示す有効な事例であります。今後も継続的な人材育成と地域資源の編集により、地域内経済循環とブランド価値の向上が期待されます。



#### 【クレア事業説明】

自治体国際化協会経済交流課の大谷から、課の事業概要並びに「プロモーションアドバイザー事業」、「日本ふるさと名産食品展」および「経済活動助成金」を含む3つの助成金について説明を行いました。

#### 【最後に】

今回のセミナーは、【第2回】総勢158人、【第3回】総勢108人の方にご参加いただきま

した。

セミナー後に実施したアンケートで、第2回では、「戦略設計をする上で重要なポイントがわかった」「高付加価値旅行の誘致等への取組を進めており、考え方の整理に大変参考になった」「実際にコンテンツを販売し、営業を行っている方の実感に基づいたお話を聞くことができ、中期的な戦略の重要性を実感した」「実際に海外から人を呼んでくる方法やそのツアー内容など具体的で参考になる情報が多かった」

第3回では、「現在のインバウンドの動向などを知ることができた」「ガストロノミー採択案件が興味深かった」「その地域ならではの伝統工芸、文化を利用したコンテンツ造成の手法が参考になった」「実際に地元でシェフを育てるところからの取り組みが素晴らしいと感じました。学びあう時間を共に過ごした仲間たち、こうして人を育て、その方々がまた地元を盛り上げていく姿が浮かんた」などご好評をいただきました。

クレア経済交流課では、今後も関係各所と協力・連携しながら、自治体に役立つ経済情報を提供してまいります。ぜひご参加ください！

経済交流課 大谷（備前市派遣）

